

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム 今が一番館 東棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101006		
法人名	特定非営利活動法人 今が一番館		
事業所名	グループホーム今が一番館 東棟		
所在地	岩手県滝沢市妻の神157-3		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 21 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=0372101006-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 8 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は個人目標を立て、その目標に向けて一人ひとり取り組んでいる。又、スキルアップのため研修への参加・資格取得へ向けて努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスを挟み東棟と西棟に分れており、東棟からは田園の風景が、西棟からは岩手山が眺望できる。ホームの入り口に「まちかど相談室」の幟を掲げ、他事業所との合同運営の認知症カフェや県立大学の実習生の受け入れ、認知症サポーター講座等を行っている。ケアマネジメントにセンター方式を取り入れ、利用者の日々の言葉や行動をメモにとり、生活記録にまとめ、本人の気持ちや意向を大切にしながら、日々支援に努めている。またレク委員会、危機管理委員会、広報委員会での職員の活動は、職員の持てる力の発揮となり、利用者への良質なサービス向上に繋がっている。施設長は、資格取得を評価していくシステム作りや、チャレンジプログラム等への自主的参加のきっかけづくりなどを今後計画していきたいとしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 今が一番館 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大きく書いた紙をホールのよく見える所に貼り、いつでも見えるようにすることで共有、実践に繋がっている。	開所時の理念のもと、事業所の具体的な運営方針を全員で作成し、ホールに大きく掲げている。不安な歩行者や車椅子から立ち上がる人へさりげなく近づき、ゆったり一緒に過ごす思いに寄り添う支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの来所(民謡、上映会、傾聴など)	自治会に加入しており、敬老会や地域の祭りに参加するほか菓子駅の花植えをしている。事業所の秋祭りには地域の人を招待し、ボランティアの来所や保育園との交流もある。実習生の受け入れや認知症カフェや相談にも応じている。	周りに民家は少ないが、滝沢市内外での施設長の活動もあり、認知症の理解に向けての発信がなされている。認知症高齢者の増加に伴い、地域で支え合う仕組み作りに一層期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成(小学生訪問時紙芝居など)、岩手県立大学への協力、実習生の受け入れ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、ご家族、自治会等から参加して頂き、ホーム内の近況報告も兼ね、毎回テーマを決めて取り組みなどのアドバイスを頂いている。災害対策、地域交流など頂いた情報をもとに新たな取り組みが出来ている。	利用者の状況や行事、サービスの取り組みの報告や活発な情報交換がある。利用者との食事会や、利用者家族を入れ替えながら認知症の正しい理解、普及に努めている。防災マップや避難訓練、花壇の花植え等の提案がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	家族介護者教室の委託。 認知症まちかど相談室の開設。 おれんじカフェ開催の協力。	運営推進会議のメンバーでもあり、市から「まちかど相談室」や「おれんじカフェ」、8月には市の行事「Lun伴2017」(利用者に参加した)の情報が有り、また事業所から提案や相談などで市へ出向く機会もあり、十分な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修に参加し、自施設研修を通して身体拘束について学び、意見交換をしている。	毎年外部研修へ参加するほか、内部研修では拘束に関する気づきについても話し合いをしている。日中は玄関、居室の窓は開錠している。「命令口調は使わない」「端的な説明をする」など声掛けにも工夫し、抑圧のない暮らしの支援に努めている。	

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が報告書を作成、回覧している。その他、図書の提供や冊子の配布。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長がいない場合は、ユニットの職員が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの実施、運営推進会議で出席者の方々からの意見を頂き、満足しているだけよう努力している。	家族の面会時など機会あるごとに、話をよく聞き、必要に応じアンケートを実施している。夕方7時からの避難訓練や運営推進会議での流しそうめんの企画、猫の飼育は、家族の提案による。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り、毎月の勉強会などで話し合うことができる。	レク、危機管理、広報委員会を設け、委員からはノロ対策や情報の写真化と棟内への掲示、3か月毎の広報の発送等様々な提案がある。管理者は、職員勉強会で意見を聞くほか、個別面談を行い私的な事も含め相談や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映させた環境支援を心掛けている。保有資格への評価としての資格手当の支給。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれに合った内容の研修などの参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会への会員加入をしている。協会主催の定例会、意見交換、交流会、大会への参加により他グループホーム職員との情報交換を行っている(月1回の頻度)救命救急講習会開催時には他事業所へ参加呼びかけ。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の協力を得ながら、利用者に寄り添い、本人が安心して生活できるよう職員全員で取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からの話し合いを大切にし、ご家族、本人の声をしっかり受け止める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設しているデイサービスとの連携、隣接ユニットとの交流。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に行い、会話を楽しむ。また、意思疎通が困難な方であってもよく話しかけ、介助時の声掛けを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の変化(様子)も気かけながらよく話を聴き、日ごろの様子や今後の支援についても共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご近所の方など、いつでも面会して頂いている。	ホームには家族の他、友人の来訪などもあり日常的に電話や手紙のやり取りがある。近くのスーパーや100円ショップ、敬老会で知人と挨拶を交わすこともある。誕生日には好物のラーメンを食べに網張へ行くなど馴染の継続に努めている。現在利用者個々の思い出アルバム作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の洗濯たたみ、外気浴など利用者同士で協力をしたり、コミュニケーションは取れる場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移った場合には、様子を見て訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との何気ない会話を大切にし、カンファレンスで情報をまとめるなどし、希望に添えるよう努力している。	人事異動がない事が利用者の安心感となり毎日ゆったりと過ごす中で意向の把握に努めている。また利用者の発することばや行動をメモに書き留め生活記録に残し、特記事項についても職員間の連絡ノートで共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、本人との会話の中から読み取り、共有、把握している。 センター方式の活用。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック。その日の様子から、本人の出来ることを見極めていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングを行い、職員全員で意見交換し作成している。ご家族の意見も取り入れられるよう、日々の会話を大切にしている。	センター方式を活用して利用者一人ひとりの意向を把握し、生活記録を基に家族の意見も入れて全員でカンファレンスとモニタリングを行って介護計画を作成している。定期的に3か月ごとに計画見直しを行っているが変化が生じた場合は即時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活日誌へのこまめな記録、朝の申し送り、必要時シフトのスタッフで話し合い、他のスタッフとも共有するよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節を感じる外出、地域の敬老会やお祭りへの参加。天気の良い日のドライブ。個別に誕生日外出など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会への参加、買い物などに出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携により、今までと変わりなく医療を受けられるよう援助している。	今までのかかりつけ医としているが、ほとんどが協力医に変更し、受診時は看護師が同行している。今までのかかりつけ医受診者は家族に日常の情報を渡しており、結果は電話や毎月のお知らせで報告するなど情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りで伝達、出られない時は専用のノートで伝えている。利用者に何かあれば相談し、診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院とはこまめに連絡をとり、状況の把握、情報交換するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時同意書を頂き、緊急時のスムーズな対応にも取り組んでいる。必要に応じ、家族との話し合いの場を持ち、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	利用時に「重度化と看取りに関する指針」について説明し、理解を得ている。また「救急時の延命等はしない」など緊急時同意書も看護師が説明している。看取りは過去にもあるが昨年は3名の看取り経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習が出来る研修を受けた職員が講師になって救命救急講習を自施設で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の協力のもと防災訓練実施、昨年からは夜間想定した訓練を取り入れられている。危機管理委員による防災対策勉強会実施。必要物品の調達・備蓄管理。	防災マップの検討や7時からの夜間避難訓練を実施しており、灯りがないと足元が暗いなどの体験をしている。調理場と反対側に夫々車椅子にも対応したスロープを設置している。食料や水の備蓄もあり、暖房器具も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、更衣時などには本人に合わせた対応をしている。	「できなくなった思い」を受け止め利用者への声掛けや対応について職員同士日常的に確認している。抑圧的な言葉は使わない事や、トイレ誘導時の声掛けやトーンにも配慮するなど、利用者の誇りを尊重した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする前は必ず声を掛け、本人の意思を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間が掛かってもその人のペースで、生活していけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今は全く気にしなくなった方でも、定期的に髪を染めたり、季節に合った服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を下準備したり、食べ方を話したり、季節ごとの楽しみがある。米研ぎや後片付けはそれぞれに出来ることを毎日一緒に行っている。	畑は耕作から収穫まで利用者主導で行っている。利用者は買い物から食材の準備、味付け、後片付けまでできる範囲で参加している。食事への参加意欲が低い人には「そろそろ終わりましたか？」など働きかけの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師とも相談しながら一人ひとりの状態を把握し、本人の好みを重視しながら、水分、食事量を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛けをしている。介助が必要な方にはその方に合ったやり方で対応している。状態によっては歯科受診。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間で声掛けしたり、それぞれに合わせた対応をしている。	トイレでの排泄を基本に、高さの違う便器と後ろから介助ができる便器が設置されている。ほとんどは布パンツにパットの併用だが夜間は状況により、リハビリパンツを使用し、声掛け誘導をしている。布パンツへ改善した利用者には満足な表情が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩の他、食物繊維の多い食事、水分摂取できるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事があるとき以外は毎日入浴できるようにしている。	入浴は、週2～3回だが希望により対応している。入浴中は歌ったり初めて聞く言葉があったり、2人で入浴する等楽しめる入浴となるよう支援している。入浴を拒む人は、タイミングを計ったり「準備したよ」と伝え強制にならないような配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドから起き上がる都度、ベッドメイキングし、いつでも気持ち良く休めるよう整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、看護師から報告を受けた内容を確認、把握。体調の変化があればすぐに看護師へ報告し受診してもらっている。服薬確認は夜勤者がセッティングし、遅番がチェックをしているが、服薬時もチェックしてからお出ししている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、本人の出来ることを見極め、お願いすることで、本人の役割として張り合いや喜びに繋がっていると思う。お酒が好きな方には行事がある時に楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区の行事への参加や天気の良い日はなるべく外を散歩するなど、気分転換を図れるよう支援している。家族との外出支援や個別の外出もしている。	日頃はベンチで外気浴や敷地内の散歩、近くの産直へ出かけている。1月は八幡宮へ初詣をしドライブで高松の池や八幡平、網張へ行き、桜や菜の花、カキツバタの見学、チャグチャグ馬ツコと利用者の希望も入れながら、日常的に外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自分で現金管理している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	のれん、よしずを活用している。季節に合った物や花を飾ったり、廊下には棟新聞や行事の写真も掲示して、いつでも見て楽しんで頂けるようにしている。	ホールは居間兼食堂、台所となっており、東棟からは田園が、西棟からは岩手山が眺望できる。天窓からの光と深みのある茶色の梁が落ち着いた解放感を与えている。廊下には行事の写真や詩の作品などあり、動線に沿った手摺など安全に過ごせる配慮と工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間へ上がる所に腰掛けたり、玄関先にはベンチもあり思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテーブルなど好みの物をお持ち頂いている。	入り口は、東棟は暖簾、西棟は布でくるんだペットボトルを挟みそれぞれに工夫している。ストーブ、飾り付け用ボードの他ベッドは利用者に合わせて用意している。夫々使い慣れた椅子やダンス、電気スタンド等持ち込み、テレビを見る人、位牌に手を合わせる人、家族の写真飾る人等、自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の目線に合わせた物の配置や表示を心掛けている。		